

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成22年度農作物病害虫発生予察情報について

平成22年度農作物病害虫発生予報第6号を発表したので送付します。

平成22年度農作物病害虫発生予報第6号

平成22年8月31日  
徳島県

・普通作物  
普通期イネ

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が4.0%、株あたり寄生虫数が0.002頭である(平年同時期は未発生)。
- (2) 8月5半旬までの時点において、予察灯への誘殺を認めていない。
- (3) 8月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は多いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が72.0%、被害葉率が3.3%であり、平年(29.9%、0.8%)と比べて発生が多い。
- (2) 8月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は多いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

・果樹  
カンキツ

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査(スダチ)では発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.1%、果実発病度が0.3)。
- (2) 8月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は多いと見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝を極力除去する。また、せん定枝は園外に持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。

## ミカンハダニ

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査では,発生圃場率が80.0%,寄生葉率が24.3%であり,平年(56.2%, 7.9%)と比べて発生が多い。
- (2) 8月27日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は平年並,日照時間は多いと見込まれており,やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には,十分な量の薬液を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので,同一系統薬剤の連用は避ける。

## ナシ

### うどんこ病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査では,発生圃場率が25.0%,葉の発病度が0.5であり,ほぼ平年(31.0%, 1.4)並の発生である。
- (2) 8月27日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は平年並,日照時間は多いと見込まれており,やや発生抑制的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 早期落葉すると樹勢を弱めるので,発生の多い園では収穫後に防除を行なう。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない),発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査では,発生圃場率が12.5%,寄生葉率が1.6%であり,平年(27.4%, 6.1%)と比べてやや発生が少ない。
- (2) 8月27日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は平年並,日照時間は多いと見込まれており,やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生の多い園では収穫後に防除を行なう。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

## カキ

### うどんこ病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では,発生圃場率が80.0%,発病葉率が2.5%であり,ほぼ平年(58.2%, 9.3%)並の発生である。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は平年並,日照時間は多いと見込まれており,やや発生抑制的な気象条件である。

## 炭そ病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では,発生圃場率が20.0%,発病果率が0.2%であり,ほぼ平年(6.0%, 0.1%)並の発生である。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は平年並,日照時間は多いと見込まれており,やや発生抑制的な気象条件である。

や発生抑制的な気象条件である。

## 果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ,チャバネアオカメムシ等)

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) ツヤアオカメムシ,チャバネアオカメムシともに,予察灯への誘殺虫数は平年並~やや少なめで推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	浦					板				
	2010年	2009年	2008年	2007年	平 年	2010年	2009年	2008年	2007年	平 年
8.1	29	45	240	28	57	14	1	12	3	9
8.2		70	348	10	76	8	1	14	4	9
8.3		71	273	21	70	9	1	10	3	7
8.4		79	56	8	45	14	2	8	18	13
8.5		28	38	8	45	1	2	8	3	7
8.6		48	220	6	75		7	25	2	9

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	浦					板				
	2010年	2009年	2008年	2007年	平 年	2010年	2009年	2008年	2007年	平 年
8.1	84	66	67	64	78	33	11	10	63	32
8.2		178	107	58	93	12	16	4	29	26
8.3		85	219	61	132	18	10	15	35	20
8.4		94	309	41	109	23	7	19	11	18
8.5		53	85	56	98	4	5	41	2	19
8.6		108	255	29	148		10	50	1	16

(2) 8月27日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は平年並,日照時間は多いと見込まれており,やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので,園内を巡回し飛来に注意するとともに,飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 果樹カメムシ類は夜行性なので,薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので,広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

## 野菜

### 夏秋ナス

うどんこ病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で,発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では,発生圃場率が66.7%,発病葉率が4.7%であり,平年(57.1%, 7.8%)並の発生である。
- (2) 8月27日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は平年並,日照時間は多いと見込まれており,やや発生抑制的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い),発生程度は「中」

## 2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、寄生葉率が12.3%、被害果率が8.7%であり、平年(37.6%、3.1%、3.7%)と比べて発生が多い。
- (2) 8月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は多いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、寄生新梢率が1.9%であり、ほぼ平年(9.6%、0.5%)並の発生である。
- (2) 8月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は多いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並～やや多い)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が77.8%、寄生葉率が1.9%であり、平年(32.1%、5.2%)と比べて発生圃場率が高い。
- (2) 8月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は多いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

## 秋冬ネギ

### シロイチモジヨトウ

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、50株当たり虫数が0.1頭であり、平年(48.5%、5.0頭)と比べてやや発生が少ない。
- (2) 8月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は多いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 次世代の発生を抑制するためにも、被害を受けた植物残渣は圃場に放置せずに、確実に処分する。
- (2) 幼虫の齢期が進んだり、食害して葉の内部に潜むようになると、薬剤による防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。
- (3) ネギの集団栽培地帯においては、フェロモン剤による防除が効果的であるので、適切に使用する。
- (4) ヨトウコン-Sによる交信攪乱効果は設置後3ヶ月程度で低下してくるので、早めに交換する。

## ネギアザミウマ

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が50.0%、葉の被害度が0.8であり、ほぼ平年(19.3%、0.2)並の

発生である。

(2) 8月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は多いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「多」

2)予報の根拠

(1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、葉の被害度が11.8であり、ほぼ平年(86.9%, 20.5)並の発生である。

(2) 8月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は多いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は平年並で推移している。

(2) 8月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は多いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

シロイチモジヨトウ

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は平年並で推移している。

(2) 8月27日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は多いと見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

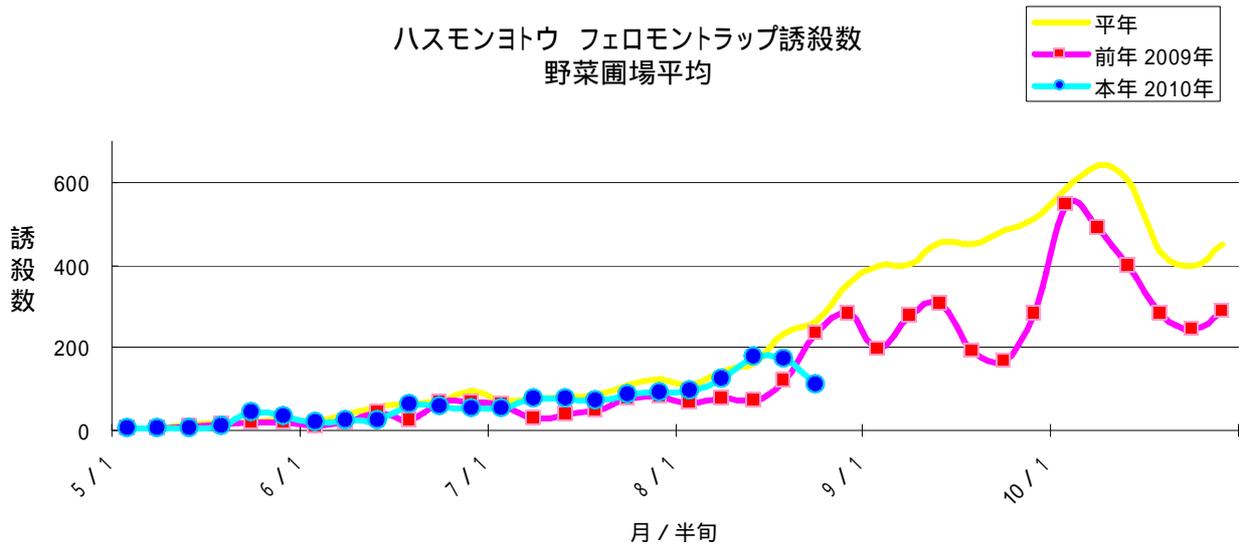
3)防除上注意すべき事項

(1)幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

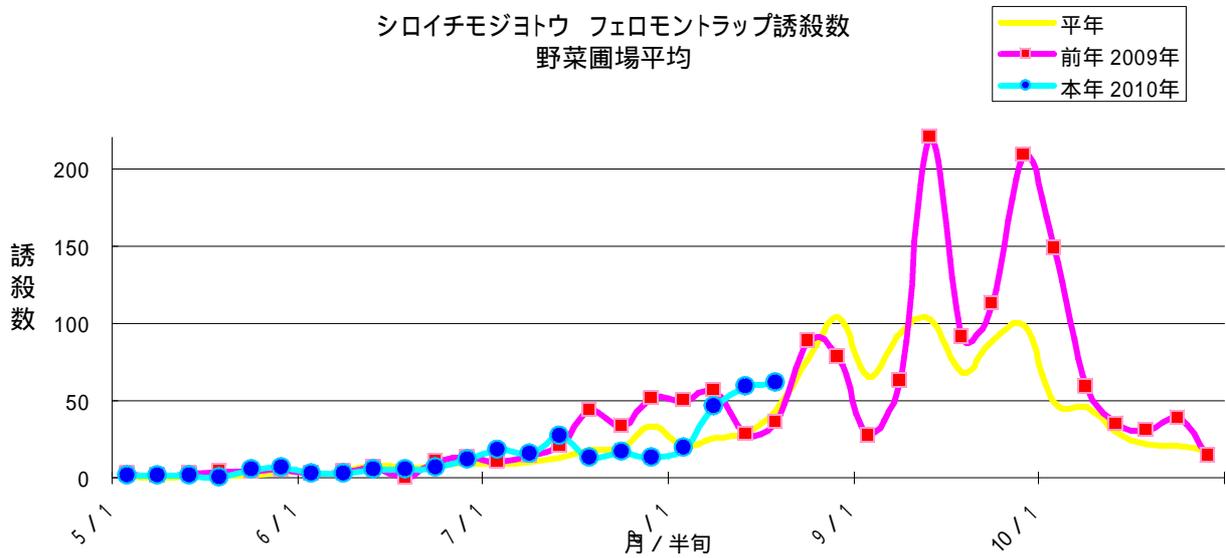
[フェロモントラップへの誘殺虫数] (調査圃場の平均値)

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2010年	2009年	2008年	2007年	平年	2010年	2009年	2008年	2007年	平年
8.1	95	67	43	79	111	19	50	26	9	21
8.2	123	77	72	62	142	46	56	37	6	26
8.3	176	70	83	74	161	59	28	42	5	28
8.4	175	119	176	162	233	62	35	73	9	43
8.5	226	234	230	183	264	74	88	153	24	77
8.6	315	281	210	217	353	93	79	204	40	103

ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数  
野菜圃場平均



シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数  
野菜圃場平均



調査圃場：徳島市(川内,不動),石井町,阿波市(柿原,香美),吉野川市(鴨島),東みよし町(三加茂)

**その他**

- 1)防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにして下さい。
- 2)薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 3)水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

**発生量の表示**

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
 テレホンサービス：0 8 8 3 ( 2 6 ) 1 1 9 9  
 U R L : <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>  
 病害虫の発生予察情報,発生状況,防除法等をお知らせしています。